

平成30年度 第3回 学校運営協議会 議事録

日時：平成30年12月13日（木）10時00分～12時00分

場所：神奈川県立津久井高等学校3階看護実習室

議事（司会：定時制教頭）

1 校長挨拶

本日は第1回・第2回学校運営協議会の内容を踏まえて、来年度に向けて具体を考えていきたい。

2 各部会からの報告

（1）学校評価部会（定時制教頭）

- ・資料1に基づいて説明。
- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」は、一県立高校が手をあげて何とかなる話ではない。地域の企業やNPOがコンソーシアム（連合を形成）し、それをベースに協働し、どんなことができるのかを提示して指定を受けるという流れ。他県では県教委が担当。

（2）地域コーディネート部会（林）

- ・資料2に基づいて説明。
- ・高校に対して敷居が高いと感じている反面、協力したいという声も聞く。コミュニケーションが苦手な生徒も多いが、コミュニケーション能力をあまり必要としないボランティアなどを取り入れてもよい。

3 校長より

- ・「津久井高校の未来予想図」に基づいて説明。
- ・生徒が「夢」を持って3年間を過ごし卒業してほしい。本校は確かな学力育成推進事業の指定校であり、来年度から3年間継続となった。また、中間試験を廃止し、評価のあり方を検討。ユニバーサル・デザインを活用した授業改善を実施し、どの教室に行っても同じ風景で落ち着いた学習空間の形成を図っている。
- ・進学先、就職先へのアプローチには課題が残る。
- ・近隣中学校からは「津久井高校の強みは福祉科である」という声が根強い。普通科のあり方、福祉科の生かし方を模索している。

- ・部活動については、人数は少ないものの（加入率2割）、サッカー部は他校との試合をさかんに行っている。バスケットボール部は1年生を中心に練習を続けており、変わりつつある。陸上部、吹奏楽部が津久井中央小学校にボランティアとして参加。今後は学習ボランティアを依頼されている。
- ・「津久井高校の生き残りをかけて」という資料を作成した。昨年度40名以上定員を割り、厳しい現状の中で、バイク通学の許可（定時制では許可している）、子育てを終えたご家庭に3年間生徒を下宿させていただく等のアイデアが生まれている。バイク通学の許可に関しては他県での事例を参考にしたい。県立高校（全日制）では許可している学校はないが、各校の判断に委ねられている。
- ・制服を正しく着用できない生徒が多い。現在は定期試験の日のみ強化週間としている。制服着用、朝のHRに間に合うように登校したらポイントを付与し、貯まったら食堂のチケットを与えるキャンペーンの実施を検討中。
- ・生徒の主体的な学びを総合的な探究の時間に実施し、教科横断的な学習の基軸としていきたい。発達障害、あるいはその傾向にある生徒は1割程度存在している。きめ細やかな教育体制を考えていきたい。

《質疑応答》 □：委員 ■：学校

□現在、校長のリーダーシップのもと進めているが、人事異動によって来年度状況が変わってしまうのではないか。（加川委員）

■たとえば変わったとしても存続できる計画を作っていきたい。（校長）

□ボート部の現状は？（加川委員）

■現在は部員がいない。インストラクター（世界選手権に出場している卒業生2名）によれば、結果を求める指導体制では苦しい現状。（校長）

□今までボート部に加入している部員はどのような生徒なのか？（加川委員）

■保護者がボート経験者、日常生活の中でボートに乗ることが当たり前で育った生徒が多かった。県立高校ではボート部があるのは本校のみ。

□（下宿先は学校が手配して）全国募集をかけてみてはどうか。（加川委員）

■県は、理解を示したが良いとは言わない。近隣中学校から島根県の高校に1名入学した例もある。（校長）

4 次年度に向けた課題（熟議）

（1）目標や目的の共有（定時制教頭）

- ・資料3、参考資料に基づいて説明。

《意見交換》 □：委員 ■：学校

□近隣では、元津久井高校の生徒を何らかの事件や問題に関わっていることが多い。基礎学力が身に

付いていない子も多く、学校で何とかつなぎとめてほしい。生活が安定すれば、目つきも変わっていく。環境面を整えていただきたい。バイク通学に関しては、保護者に覚悟をさせなければならない。津久井はアイスバーンなど交通の危険度が高い。交通法規を守っても安全は100%守れない。学校側の負担は増えると思う。また、自転車通学の生徒も多いようだが、自転車は車と一緒にであるという意識を植え付けてほしい。(佐藤委員)

■実際に乗ったときに危険が伴うことを、講習等で教えるべき。(加川委員)

(2) 課題解決や目標達成に向けた取組の検討

《意見交換》 □：委員 ■：学校

□4～6月で退学してしまう生徒が多い現状。何か手立てはないのか。(加川委員)

■義務教育の段階で毎日登校していない生徒も一定数入学してくる。基本的な生活習慣、学習習慣が身に付いていない生徒は入学しても学習が嫌になり、学校から足が遠のくケースがある。負の環境の中で育った生徒は、足が遠のくケースが目立つ。SC、SSWなどの手立ては行っているが、すぐには解決できないケースが大半である。(副校長)

□定時制の授業を見学した際、昔のイメージとは変わった。昔は苦学生が多かったが、セーフティネット、学び直しがメインになっている印象。(加川委員)

■全日制を退学し、定時制に再入学するケースもある。(副校長、定時制教頭)

□中学校では、ほとんどの生徒が高校に行きたいという意思を示している。その生徒の特性に合わせた進路指導の在り方を模索している。先日、高校の先生たちが「退学」ではなく「進路変更」という言葉を使っていて、驚いた。キャリア教育という視点は特に中学校には足りない。何でも「いいこと」だと思いがちで、マイナスな面を想像できない。中学校では職場体験を実施しているが、生徒は挨拶や身だしなみの重要性を学んでくる。学校側が目的を持って場をしつらえて学ばせ、社会に出たときにどう生かすかという教育が必要である。また、課題の多い生徒には規律を守らせることから始めている。「見える化」で教師と生徒が共有することが大切である。また、「津久井高校の未来予想図」の中で部活動の活性化がキーワードとして挙がっているが、今後セーブされる傾向にある部活動で学校を立て直すことは厳しいのではないか。(清水委員)

□今回の熟議は次年度に向けて、という理解でいいのか。(菊地原委員)

■「どのような生徒を育みたいか」「どのような学校づくりをしていきたいか」を基に、次年度は部会を実働させていきたいと考えている。(定時制教頭)

□「地道にこつこつ」とは具体的にどのような取組を考えているのか？(菊地原委員)

■問題行動の多い生徒の対応に追われ、大人しく地道に勉強している生徒への対応が疎かになっている現状をふまえての意見。具体は今後考えていきたい。(定時制教頭)

■中学校は福祉の津久井、というイメージが強い。地域のニーズはどのようなものが考えられるだろうか？(校長)

□市民の中には、介護サービスを受けたいが受けられないという方が存在する。そのような方に対する車いす介助ボランティアやゴミ拾いなども良いのではないか。運営する施設に実習生が来た際は、必

ず車いすに座らせ、声をかけられないとどんな気持ちになるか等を体験させている。それを一般の家庭向けにレクチャーできるような活動も良い。中学生が職場体験に来た際、将来の夢を聞くと介護の仕事をしたいと言う。施設の近隣中学校では毎年20～30名は高齢者施設に職場体験に行っているとのこと。福祉科が受け皿を大きくすることで、その生徒達をすくい上げられるのでは。また、大学への指定校推薦の数が増えれば、進路選択の幅が広がるというメリットがある。制服着用キャンペーンは外発的要因が先行しているので、1年毎に内容を変えていく等の工夫が必要。(萩原委員)

□津久井養護学校には、定時制の生徒が野菜を持ってきてくれている。3年間見ていて、表情が変化していった。生徒が変化する背景には、教員による手立てがあったはず。発達障害はそれぞれの特性であり、それに合わせた対応をしていく必要がある。厚木西高校(インクルーシブ教育実践推進校)は、冬休みの過ごし方を文章ではなくイラスト化してわかりやすかった。それがユニバーサル・デザインである。生徒が毎日通いたい学校を作るためには、教員が同じ方向を向かなければ難しい。学校に支えてもらった生徒は、卒業したいという気持ちになる。制服着用キャンペーンは方法の1つとして有効だが、発展させていかなければならないと思う。今朝のニュースに津久井の住民で足こぎボート大会の優勝者が出演していた。きっかけは何でも良い、何とかボート部再生の道を作ってほしい。(塚田委員)

□岩手県のある高校では生徒も一緒に学校の課題を出し合い、生徒に自分のこととして捉えさせる仕組みを作っている。生徒が規律を決めるので、責任感も生まれる。ボーダーラインの生徒には他の生徒が勉強を教えたり、一緒に登下校したりしている。生徒同士がサポートする体制を、教員がサポートしていくという視点。そのような事例を基に、生徒を主体とした課題解決の在り方を模索するのも良いのではないか。例えばバイク通学のメリット、デメリットを生徒自身に話し合わせるのも有効である。(角田委員)

■今年の生徒総会で売店の設置が可決され、生徒会役員を中心に委員会を作り、話し合わせている。もっと発展させていきたい。(校長)

5 その他

第4回学校運営協議会は3月16日(土)13時00分～15時00分(予定)。